芸振

大分県芸術文化振興会議会報

No.14 47. 12

発行所・大分市大手町　県教育庁文化課内　芸術文化振興会議事務局
発行人・米田貞一　編集人・矢野朔雄

# 喜劇は終った
# 諸君、喝采を……

県立芸術短大付属緑丘高校長
高橋壽満

その生涯にふさわしく、吹雪と雷鳴の夜、57才で人生の幕をおろしたというベートーベンが、最後に友人にあてて書いた手紙の一節に「喜劇は終った。諸君、喝采をし給え。」とある。

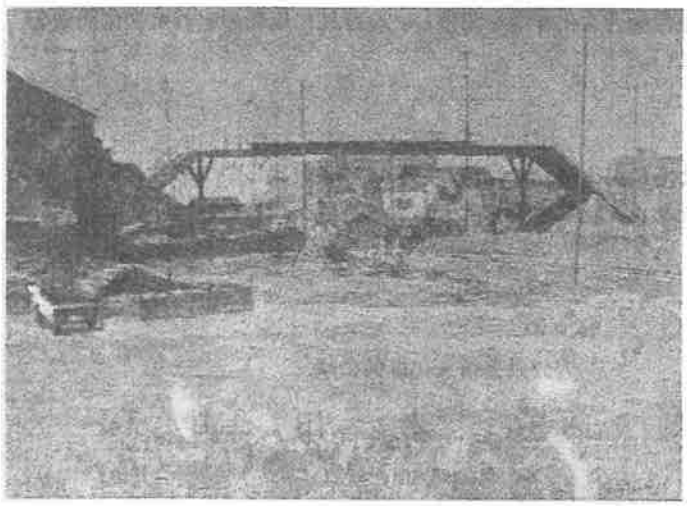
音を求めることだけにさまよい続けた彼は、そのために、極度に貧しい生活をし、恋を失ない、いつしか人を避け、偏屈になっていた自分を最後におどけてみせたのか、或は、序奏も和音もなく、4つの音符からなる響きに始まる、あの運命交響曲をウィーンの劇場で発表したとき、その舞台に2人の指揮者が立った。1人は常任指揮者であり、いま1人は彼自身であったという。これは、まさにこっけいな図であるが、これに表徴されるように、聴力を失なった作曲家の終焉を自嘲したものなのか。

しかし、それ以前に彼が自殺を決意してハイリゲンシュタットでかいた遺書の中に「私は片意地でも、気狂いじみた男でもない。たった1日でよいから、ほんとうの喜びの日がほしかっただけだ。」とあることから考えれば、彼が願ったもの、つまり、たった1日の喜びの日のための無限の音の世界への挑戦が未完、未熟に終ったことに対する悲しみの表現とみることはできないだろうか。

芸術創造の苦しみがどんなものであるか、到底われわれには理解できないことではあるが、生涯をかけ、情熱をかたむけ、燃えつきるまでに闘かい続けて生み出される不滅の作品の感動が、今日、われわれに生きることの意義を教え、人間がそこにあり、文化がそこにあることのあかしになっていることは尊いものである。

創造の苦しみと歓びに対して、再創造の苦しみと歓びがまたそこにある。

名曲を再現することが如何に困難なことであり、なまなかな修練で達せられるものではないことは知っているが、それを更に、作曲者が苦しみぬいた創作のその時点にさかのぼって、その全たき解釈に迫まることは大変なことだろうと思う。しかし、創造の苦しみに通ずることなくして、単なる音の再現に止まれば、不朽の名曲の感動はいつか消え去るだろうことを考えるとき、音楽家の任務は重く、その人生は尊いと思う。



# 陳　情　書

さる、9月芸術文化振興会役員より、次の陳情書を県教育委員会、県知事、副知事、総務部長、等にまた10月には請願書を県議会、等にそれぞれ提出した。陳情書は下記の通り。

## 陳　情　書

大分県における産業、経済の発展は、年とともにまことにめざましいものがありますが、県民の生活を真に豊かにし、明るく住みよい郷土をつくるためには、産業とともに文化、芸術を積極的に振興しなければなりません。

大分県は昔から、梅園、万里、竹田をはじめ、近代日本の先覚者福沢諭吉、世界的音楽家滝廉太郎などの学者、芸術家を数多く輩出しております。現在も文学、美術、音楽その他各界第一線で多くの県出身芸術家が活躍しておりますことは、本県の文化の伝統の高さを示すもので、われわれの誇りとするところであります。

大分県芸術文化振興会議は、県内の芸術文化団体を打って一丸とし、先人の秀れた文化を伝承するとともに、今日に生きる県民の幅広い文化振興に微力を尽してまいりました。

県におかれましては、今回、新たに文化課を設置し、いよいよ産業と併せ文化、芸術を推進することを県政の重点にされましたことは、まことによろこびにたえません。

われわれは、この機会に、さらに一歩をすすめるため、次の各事項の早期実現を陳情します。

記

**1　県芸術祭地方公演の実施補助について**

大分県芸術祭も年毎にかなりの成果をあげ、本年で第八回を迎えました。

さらにこの事業をすすめるための補助の増額と、地方巡回公演について、画期的な予算措置を講じられたい。

**2　市町村文化の啓発向上と育成補助について**

県内における文化活動は、地域により相当の格差がある現状です。

そこで新年度より、年次計画による地域総合文化事業を開催し、全県的に均衡のとれた文化活動をすすめるため、思いきった助成をされたい。

**3　芸術文化活動の団体補助について**

県下における芸術文化団体は、年とともに県下全域に浸透し、いよいよ振興しつつあります。

この団体の活動をさらに発展させるため、大幅な予算を計上し助成措置を講じられたい。

昭和47年9月

大分県芸術文化振興会議

会長　米田貞一

## 本年度県芸術祭美術部門をふりかえって

県美協事務局次長　菅　　久

主催行事としては、例年の様に大分県美術展覧会があった。ことしは第八回展で、日洋彫工展が11月7日～12日、写真展が11月28日～12月3日（以上トキハ）。書道展が12月15日～21日（大分文化会館）と他県にはみられない三期、二会場である。これは大分県に美術館がないことが第一の原因で、毎年会としては頭痛のタネ。今回は特に11月前半から12月後半にかけ、長期の開催になったので、今期として何となく盛りあがりの欠ける感じがしないでもなかった。このことについて大分合同新聞「笛」の欄にQ氏が本年度〝集中行事〟（主催行事）を指摘していたが、そこには大分県全体として考えなければいけないいろいろな問題がある様な気がする。一日も早く一会期、一会場で県美展が開ける日が来ることを切望するものである。

次に本年度特別行事としてオリエント美術展が開かれたが（10月6日～15日、大分文化会館）、この展覧会はことしの県芸術祭行事中、最も質量共に一流の催しとして注目された。前にものべた様に大分県には美術博物館がないので、この種の鑑賞の機会には日頃めぐまれていない。この秋は特別行事としてこの珠玉の美術工芸展覧会が県民に十分潤いを与えてくれたのではないかと思っている。

参加行事では大分、別府両市美術展をはじめ、竹田をしのぶ美術展、万里書道展、雲龍書道展、福田平八郎賞図画展、朝倉文夫賞彫刻展があった。いずれも今秋の芸術祭を飾るにふさわしい参加行事と思う。しかしほとんどが例年同様の行事ばかりで何か新味に乏しい感がある。もっと他にいろいろな美術展も開かれているはずだし、芸術祭参加行事としてふさわしいものがあるのではないかと考えられる。

来年度はさらに角度をかえた行事内容の登場を希望すると共に本年度の質をさらに掘り下げ一層充実したものを期待してやまない。

第4回九州沖縄芸術祭行事

## 創作バレエ「河童昇天」参加によせて

笠木啓子バレエ研究所
主宰　笠　木　啓　子

私は、昨年の秋には社団法人「現代舞踊協会」九州支部の会員として、また、今秋には創作バレエグループ「九州バレエ劇場」の一員として、「河童昇天」というユニークな創作バレエに参加する機会を得、両年とも第2景を振付担当し、当研究所助教師とともに出演いたしました。

昨秋の第3回九州沖縄芸術祭は、宮崎市と長崎市との2カ所で行なわれ、今秋の第4回芸術祭は福岡市と鹿児島市の両市で開催されましたが、右の4市で上演された創作バレエ「河童昇天」には、九州各県から集った舞踊家たちが提携して、「九州の作品」を創りだそうという夢がこめられていました。

この「河童昇天」の大概を申しますと、企画は福岡の八十野辰美氏、台本はNHKの角田嘉久氏、音楽は福岡の今史郎氏、また、演出は宮崎の益田純氏がそれぞれ担当しました。そして、ストーリーの原案は故火野葦平氏の「河童」により、テーマは「私たちの周囲に広がる河川汚濁、あるいは大気汚染などいわゆる公害現象が起っています。この現実をふまえて、舞台を昔のクールな河童の世界に移し、人間の夢や希望、怒りなどをユニークな踊りの中に繰り広げ訴えようとするもので、昔から親しまれてきた伝説の動物河童「カッパ」の目から見た人間社会を喜劇風にまとめ上げようとしている」ものであります。

さて、九州沖縄芸術祭に参加して感じた事を申しますと、先ず、九州という地域内での舞台芸術分野の合同公演に困難を伴うことは当然ですが、合同練習やディスカッション、個人レッスンや本番などと相当に厳しく充実した日程の連続でした。けれどもいろいろな障害に耐えながら、九州バレエの方向（夢）に向ってつき進む会員の皆さんの意欲には頭の下がる思いすら抱きました。特に若い舞踊家たちが、ダイナミックに自分の考えや感情を踊りの中に打ち出そうとする誠実さには強く心をひかれ、表現形式の新しさとは何かをあらためて深く考えさせられました。さらに、今後もこうしたカラーの異なる

バレエ団や研究所の主宰者たちが集って、それぞれの美しい個性をぶっつけ合い、新しい作品の創作に協力するならば、どんなにすばらしいことであろうかと思いました。そして今後一層努力しなければならないと思っています。

## 光りをあてながら

柏木淳一

（ユニーク、アート、ステージ代表者
舞台照明家
大分文化会館専属）

県芸術祭も今年で第八回になります。私も舞台技術者として第１回の開幕から毎回おつき合いして来ました。この大事業の県芸術祭を成功裡におさめるには舞台表面の華やかな反面影の力である舞台技術者は細かい神経をもち、舞台上の良さを観客に与えなければなりません。今回の芸術祭の中で思うままに筆を走らせ、舞台雑感を少しのべさせていただきます。

さて、私達舞台技術者は、出演者や出演団体から或る種の註文を受けてもそれ以上にするのが私達の仕事なのです。だから前もって打ち合せを綿密にしておけば全てを把握して仕事が出来るのです。

私の分野である舞台照明も細かい計算の上に成り立つのです。ただ明るくするだけのオーケストラの照明でも奏者の目に光が入らないよう気を配ったり全体に平均した明度かどうかなどと気を配ります。日本舞踊の明るい舞台でも演目によって上手（かみて）、下手（しもて）からの光を調節したりして舞台が映えるようにとか初め、中頃、打ち上げ頃と明るさに変化をもたせる等の配慮が必要なのです。

又、バレエ、オペラ等の場合は、違った面での苦労があります。照明プランのこと、色や光の組立、効果のこと、流れ、約束ごと、と色々あります。

また、今年のオペラ「蝶々夫人」の第３幕の幕あきの夜明けの時間経過など、音楽効果や、照明効果をも少し生かせたのではと反省させられます。

スローに調節しすぎてその美しさを出しきれずに終ったことは残念に思います。反対に、この美しい夜明けをつくる為の第２幕の夕暮れの方は、大変な仕事でした。芝居のキッカケが音楽で設定されていたので、それによって進行しなければならず、観客に不自由さを感じさせない照明であったか、どうか心のこりです。

終りに、舞台技術が極度に発達した今日、それに対応出来るために、そしてこれからの大分の舞台をより立派にするために、私達舞台技術者がもっともっと勉強しなければならないと痛感しています。

来年の芸術祭の全ての行事がすばらしいものであるよう期待したいと思います。

## オペラ雑感

小長久子

毎週日曜日の夜放映されるＮＨＫのテレビドラマ「新平家物語」をみながら、この舞台は随分費用がかかっているだろう。衣裳もこのように豪華で立派なものを揃えるのは大変だろうなど、いつの間にかオペラを始めて以来、そういうことを考えるようになった。又俳優の演技の素晴らしく巧いのに思わず感嘆する。そして、ありとあらゆる役に合った俳優にこと欠かないのもつくづく羨ましく思うようになった。

去る９月７日、東京で全国オペラ協議会が発足、会議の終った夜、一同は上野の文化会館で上演される２期会の「フィガロの結婚」に招待された。初日ではあったが、昨年も東京で上演されており、文化庁移動芸術祭で佐伯市文化会館落成記念にも公演されたものである。フィガロ・立川清登、スザンナ・伊藤京子、伯爵・宮本昭太、伯爵夫人・加藤綾子というキャストの顔ぶれで、立川清登は佐伯市でも出演しているが、伊藤京子のスザンナで観れたのは幸であった。さすがはプロであり、お芝居も堂に入ったもので、秋山和慶指揮のオーケストラ、日フィルも実に美しい音で演奏した。

このオペラは昭和43年に大分ではじめて苦労して上演しただけに、ストーリーも音楽も細部までよく知り尽しており、楽しく観ることができた。「フィガロ」は２期会だけでも３年、５年、７年おきに上演されている。こうして何度もくり返している中にそのオペラは本当の自分のものとなり、聴衆のものとなるであろう。

外国でオペラは恰度日本の歌舞伎のようなもので

誰もがよくオペラを知っており、さわりのアリアやごひいきの歌手に盛んに拍手を送っている。母親は子供に前以ってストーリーなどをよく話して聞かせてからオペラに連れてゆくという。私は7年程前、ミラノからローマにゆく汽車の中で、1人のおぢいさんと向い合せに坐った。一見何でもないイタリヤのそのおぢいさんが、又よくオペラのアリアを知っていて「カルメン」「蝶々夫人」など次々と歌ってゆくのに驚いた。日本にもオペラのアリアを歌えるおぢいさん達がいつかはでてきて欲しいものだと思ったことだった。

今年の「蝶々夫人」の大分公演も県・市報道関係者をはじめ、多くの方々の御支援により無事に終りあと地方公演を待つばかりとなった。県が地方公演に援助して補助をつけて下さったことは何よりも有難いことである。この「蝶々夫人」も、くり返し上演して「県民オペラ」のレパートリーとなるよう、そして来年の「吉四六さん」も私共の〃おはこ〃となるようにしたいものと今からたのしみである。

## ヨーロッパ、のぞき見の記

事務局長　矢　野　朔　雄

1か月のヨーロッパの旅は全くあわただしいものであった。 あれこれと見たいもの、 聞きたいものを胸いっぱいつめこんで出かけたものの、文部省からあたえられた仕事においまくられて、余分なことをするひまが少なかったのである。しかし、私にとっては、余分なことといわれることが本職に関係するものであるだけに、残念でならない。音楽会にしろ、劇場見物にしろ、美術館訪問にしろ、それだけを目的に行かなければとても十分なことはできないものであることを痛感したのである。

それでも、チェコスロバキアでの10日間は全くすばらしかった。千年の歴史と文化をもつ遺跡、魅惑的な自然美、森と山、池や湖水、すばらしい食事のレストラン、ロマンチックな小さな居酒屋、おいしいビールや上質のブドウ酒をそなえたワイン・ショップとくにこの国の首都プラハは、変化に富む地形、街中を流れるブルタバ川、無数の記念物と遺跡に恵まれた、私の旅行中で最も思い出深いところであった。この国は、文化に関しては文化省が行政にあたり、わが国の文化庁よりも強い力をもっていることはたしかで、いたる所で美術品や記念物を修復しており、文化的伝統に対して深い愛情をよせている国民のすがたが印象的であった。プラハの国民博物館もすばらしいものであった。しかし、モーツアルトのドン・ジョバンニが初演されたといわれるオペラ・ハウスのティル劇場でみた歌劇、ストラヴィンスキー作曲の「悪魔」はみごとなものであった。スメタナやドボルジャークを生んだこの国はまたすばらしい音楽の国でもあるが、音楽会での入場券が手に入らなくて、一度も聞く機会がなかったのがいちばん残念であった。

音楽といえば、こんどの旅行でぜひ聞きたいと思っていたアムステルダムのコンセル・ヘボーも当日売り切符が入手できず、残念でならなかった。

パリーの夜は10時から始まるというが、オペラ座でもコメデー・フランセーズでも一流の劇場は8時半から開演する。パリーでの印象は、コメデー・フランセーズでみたセクスピアーの「リチャード3世」が、ルーブルや一流クラブ「リド」でうけた印象よりも最大にすぐれたものであった。

セクスピアー劇といえばロンドンのアルドウィチ劇場でも「オセロ」をみたが、本場の英国のこれよりも、パリーでの「リチャード3世」の方が数段とすばらしかった。劇は台詞と演技力がいかに大事かということが、この2つのシェクスピァー劇を見くらべてつくづく感じられた。

あわただしい旅を終えて帰って来た今、もう一度行ってみたい気持で一ぱいである。こんどこそ、行きあたりばったりの「のぞき見」でなくて、じっくりと予約席のとれるような旅をしてみたいものである。

昭和48年度

## 第5回　「九州沖縄芸術祭行事」決まる

10月16日、福岡市九州沖縄文化協会で、九州各県担当者が出席して、次の行事が決定された。

1　九州をテーマとするカンタータの夕
2　東京クワルテット演奏会
3　九州の笑い（九州にわか大会）公演会

4　九州沖縄現代工芸秀作展
5　第3回九州沖縄グラフィックデザイン展
6　第4回九州沖縄文学賞公募（詩についても検討する）
7　九州沖縄文化年鑑の刊行

。お知らせ

第3回九沖文学賞県入選者

審査員　米田貞一氏
今戸公徳氏
長谷目源太氏

優秀作　台北車站　矢野一也氏
（大分市畑中[redacted]）

次席　南国民譚　土屋北彦氏
（杵築市八坂[redacted]）

ヤマハピアノ
デェアパソンピアノ
トニカピアノ
エレクトーン
ヤマハNSステレオ

エレクトーン教室開設
大分県特約代理店

白沢ピアノ店

大分市府内町2丁目6
電話(32)3930・6331番

ピアノは演奏者の感情をそのまま鍵盤を通して
美しい豊かな音として表現されなくてはなりません。
ピアニシモからフォルティシモまで
巾広い豊かな音を生み出すカワイピアノ
全音域にわたって美しいハーモニーの得られるカワイピアノ
パーフェクトの真の意味をカワイピアノで実感なさってください。

カワイピアノ・オルガン

河合楽器製作所大分営業所
大分市中央町1丁目1番22号
TEL大分
0975—34—7007・7009